

活動の大切さ 世界向け発信

県内を会場に、生涯スポーツなどの活動を楽しむ「第76回全国レクリエーション大会2022ひょうご」が17日に開幕し、総合開会式が同日、姫路市神屋町のアクリエひめじで開かれた。

大会は19日までの計3日間で、姫路を中心に、神戸市や明石市などで主に関係者らを対象に、競技大会やセミナーが開かれる。

(山本 晃)

「全国レクリエーション大会ひょうご」開幕

愛好家らの交流や活動の振興を目的に、日本レクリエーション協会などが主催する。各都道府県が持ち回りで会場となるが、新型コロナウイルスの影響で、2019年の宮城県以来、3年ぶりの開催となった。兵庫での開催は1964年に続き2回目という。

開会式は県立高砂高校ジャズバンド部の演奏で幕を開けた。出席された故寛仁親王の長女彬子さまは、新型コロナウイルス禍やウクライナ情勢などに触れ「今こそ、幅広い人々が手を取りあうレクリエーション活動の意義が問われている。活動の大切さを日本や世界に伝えてほしい」とあいさつした。

式では功労者らの表彰に続き、姫路市民合唱団が童謡「赤とんぼ」などを合唱。大塩天満宮（姫路市大塩町）の氏子地区は「毛獅子舞」を披露し、歓迎ムードを演出した。



開会式で演奏を披露する高砂高生
＝アクリエひめじ

高砂高生ら 歓迎のステージで花添え